

a 学校教育目標	郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・きまりを尊重し、自他を大切にしながら健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域に尽くす児童を育てる学校
----------	---	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成	h 達成					イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる	「問い」がつながる学習に必要なスキルの習得	1 学習意欲を高めるために、導入や学習内容を工夫する。 2 「つきたい力」や「本時のゴール」を児童と共有する。 3 総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の実践を通して、習得したスキルを活用させる。	・単元目標に明示したつきたいスキルの習得状況	つきたいスキルを習得した児童の割合 80%以上	92%	92%	115%	A	①「やってみよう」と思えるような導入の工夫を行い、学習意欲を高める授業づくりを意識して行っている。 ②単元の初めや授業の初めに「つきたい力」や「本時のゴール」を共有して授業を行っている。 ③総合的な学習の時間を通して主体性・課題解決力・表現力を高める学習活動を行うことで、普段の授業の中で解決方法を考えたり、表現の仕方を工夫したりする姿が見られるようになってきた。	取組の継続・充実 ・引き続き、身近な学習材や導入を工夫すること等を通して、児童が主体的に学びに向かう探究学習を設定していく。	○			・一年を通すと学力の成長を感じます。 ・特に高学年には目的と目標が自覚できることでさらなる自主性の発展につながるのではないかと、これを行う意味は何であるかという部分をしっかりと抑えていただきたいと思います。 ・一人ひとりが積極的に課題に向き合い、喜びをもって取り組んでいる。
		学習リーダーを中心に、児童同士で学び合いながら課題を解決する力を育む	1 授業開始時刻に必要な用具を揃えて学びモードをスタートすることの徹底 2 間接指導時間中、学習リーダーの指示により集中して学ぶ雰囲気醸成 3 ICT機器及びソフトを効果的に学びに組み込む	・必要な学習用具が揃った授業の割合 ・チャイムに合わせて授業を実施した割合 ・学習リーダーの進行に協力し授業に参加した児童の割合	各90%以上	84% 92% 92%	84% 100% 92%	102%	A	①授業が終わると次の授業の準備をすることがほとんどの児童に定着している。 ②大休憩や昼休憩も時間を意識して行動し、チャイムに合わせて授業を始めることができるようになった。 ③学習意欲が低い児童もいるが、ほとんどの児童が学習リーダーに協力して授業を行っている。	ルールや役割の可視化、価値付け ・学習ルールを効果的に掲示したり価値づけたりすることで、児童が進んで行動する態度を引き出す。 ・へき地教育研修で学んだ複式学級の授業づくりを本校の実態に合わせて取り入れていく。	○			
豊かな心と健やかな体の育成	きまりを尊重し、自他を大切にしながら、切磋琢磨し合う学校風土を醸成する	他者の良さや頑張りに気づき、認め合う雰囲気の醸成	1 定期的に、お互いの頑張り等を紹介し合う場を設定する。 2 他者の良さや頑張りを見つけた数を見える化したり、奨励したりする。	・他者の良さや頑張りを月に1つ以上見つけ紹介した児童の割合	達成児童 80%	85%	100%	125%	A	①2学期より児童会が主体となり、「ありがとうカード」の取組を始めた。教職員も含めた全校で集まって取り組む時間は、毎回温かい雰囲気に包まれた。 ②行事の後の振り返り朝会では、高学年から低学年による主体的に褒め合う場面が見られた。教職員から適時ほめて価値付ける場面も効果的であった。	学校全体の風土としての醸成 ・次年度も学校全体で互いに認め合う場を設けることを継続していく。 ・全校児童の自己肯定感を高めようとする。 ・教職員からも意図的に価値づけたり、保護者に伝達したりするなどして働きかける。「見える化」についても新たな形として取り入れることも検討する。	○			・改善方針にも書いてあるが、これら2つのことをした結果どのようなことにつながっていったのか、大切であると考えているので、今後に期待します。 ・互いの個性を暗黙のうちに理解し合い、支えあおうとする姿が見られる。
		自身の立てた目標に向けて、努力を惜しまない児童の育成	1 目標を立て、その達成に向けて努力を要する時間を設定する。 2 目標と取組状況を見える化し、お互いの状況を確認したり、認め合ったりする場を設定する。	1年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童 80%	100%	100%	125%	A	①各学期ごとの目標をそれぞれ学期初めに設定し、各月末や学期末に自己評価や他者評価をしながらフィードバックを行っている。 ②目標は掲示し、見える化は行っているが、児童の伸びを個々に把握するまでには至っていない場面もあった。	成長を自覚させる振り返りの工夫 ・目標に対しての取組状況を個々に振り返りをさせるなど自身の成長に気付かせたり自己評価力を育成したりする。教職員は、児童の伸びや課題を的確に見取り、肯定的評価や指導を継続して行う。	○			
信頼される学校	佐木島の学校として地域住民の心の拠り所となり、必要とされる存在となる	本校に対する住民等の関心の持続・向上	1 児童のメッセージ、学校生活の様子等を地域に発信する。 2 島内三地区に定期的に出向き、島民との交流活動を行う。	・学校からの情報発信への満足度 ・公開(発信)した内容(情報)への関心度	町内会・区役員及び学校評議員へのアンケート肯定的評価90%以上	100%	100%	111%	A	①島民の皆様との交流を行えた。 ②さぎっ子太鼓をコミセン祭りで披露する予定。また、学校の様子を伝えに行ったり、情報を区内放送などで発信したりできた。	取組の継続・充実 ・学校と地域とのつながりの持ち方や、学校の取組を伝える方法を工夫する(従来の方法に加えて島内放送や回覧を活用するなど、地域と連携しながら行う)。島内放送や掲示板を利用しながら学校の情報を発信していく。	○			・双鷺州に学校コーナーを設ける。 ・情報発信は三地区あるのが難しいと思います。お忙しいとは思いますが、以前はさぎっ子通信が港の待合所にあっただけで、利用してもよいのでは。 ・コロナ禍以前は、鷺の港待合室に紙媒体で児童の様子が分かるおたよりが置いてあった。地域の人に児童の事を理解してもらうには、学校からのお便りや双鷺州などの利用も検討すると良いのではないかと考える。 ・日常的に地域に出向き、住民と交流する中で、島全体に活力を与えている。
		働き方改革を推進し、働きやすい職場環境を構築する	1 行事等の内容を精選し、効率的な業務を推進する。 2 各部・委員会において業務改善プランを策定し、実行する。 3 準衛生委員会等で各自の勤務時間外在校時間を確認し、業務の見直しやサポート体制を構築する。	・学校全体の勤務時間外在校時間平均値	・昨年度と比較し、昨年度より減少	100%	100%	100%	A	①②10月から2月の全教職員の定時退校で45時間を超えなかった割合は100%であった。今後も行事等の内容を精選しながら業務改善を進めていく。 ③月に1度の準衛生委員会で勤務時間や業務負担のある教職員の心身の状態を確認しながらフォローし合える話し合いが行えた。	ICTを活用した業務効率化の促進 ・時間を要している教材作成を電子データ化や、共有化のシステムづくりを進める。 ・引き続き、ICTを活用できる業務内容の精選と実践に取り組む。 ・ICT支援員と連携し、ICT活用にかかわる事務処理速度の向上等の研修の充実を図ったり、業務の改善のアイデアをいただいたりしていく。	○			

【j: 自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達)

【l: 学校関係者評価 評価】  
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。